

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

社会福祉法人久盛福祉会
理事長 後藤 敬太 氏

1969年(昭和44)秋田市飯島生まれ。高校卒業後、アメリカに渡りパイロットの資格を取得。帰国後は営業職を経験後、1998(平成10)年4月から介護老人保健施設あまさぎ園にて勤務。関連施設で事務局長、統括本部長等を経て2019(令和元)年社会福祉法人久盛会理事長に就任。(久盛会は本年創立25年目の節目に法人名を久盛福祉会に変更)経済同友会の国際活動委員会委員長を務める。



苦楽を共にして一緒に働いた仲間たちは「戦友」のような存在

工藤 本日はよろしくお願いたします。まずは後藤理事長の経歴をお聞かせ下さい。

後藤 私は1969年秋田市飯島で生まれ、比較的やんちゃな子供時代を過ごしております。笑。我が家は代々続く病院で、父親は三代目ですが新たに法人を2つ設立していました。私は5人兄弟の末っ子医師家系に生まれました。私は紆余曲折ありその道には進まず、父からの提案で、アメリカに留学しヘリコプターのパイロットを目指すことにしました。無事に資格を取り帰国し、さあ就職活動を！という時期にバブル崩壊…。結局その道は断念することに…。その後新潟本社の薬剤卸業の会社に採用され山形勤務となりました。その後、酒田、秋田と転勤となり、会社の寮で暮らしながら色々な病院の医薬品担当をしていました。秋田では職種も営業職に変わり、全社トップの成績もおさめました。私自身営業職を経験したことで、随分と仕事への意識も変わりました。学生時代は何のためにこの勉強をしないといけないのか？といった思考だったものが薬の営業を経験する中で、この人にどんな薬をどうやって提案すべきか？と考えたり、仕事に直結する薬理学を勉強して覚えたりなど、顧客ニーズを丁寧に探る努力をしました。時にはメーカーさんと一緒に作戦を立てて実行するなど、遊ぶのをやめて仕事のためにほぼ全ての時間を費やしていました。

工藤 突然仕事が好きになり、学ぶことが好

きになった感覚、とても共感します！

後藤 学生時代は嫌だった化学も嫌ではなくなり、念入りに確認を重ねた上で医師相手にもきちんと説明し、利益率の計算も楽しくてしょうがなかったです。営業職は市場調査、市場開拓、利益設定、営業戦略、配送等の段取り、回収、アフターフォローまですべての事をやらないといけなかったので、当時は大変でしたが今思い返すと経営をすることを前提にすると、とても良い経験ができたと感じています。そんな中、入院中の父親と久々にじっくり話す機会があり、そのことがきっかけで父の病院で1998(平成10)年4月から働くことになりました。まずは当時出来たばかりのあまさぎ園で働き始めました。その後系列法人の事務局長、統括本部長などを経て2019(令和元)年に社会福祉法人の理事長となりました。その翌年2020(令和2)年に父が他界し今日に至ります。思い返すと色々苦労はありましたが、苦しい時に一緒に熱意をもって働いてくれていた仲間たちは戦友のような感じですね。

工藤 「戦友」とはよい表現ですね。同じ問題を共有し、苦楽を共にするのはまさに一緒に闘った仲間ですね。コロナ渦にもそんな会社や仲間もいるかもしれませんね。昨今コロナ禍等で大変な企業も多いですが、何か変化などはありましたでしょうか？

後藤 当時2020(令和2)年4月に東京の太田区に開所予定の施設がありました。ちょう

どその年2月頃からコロナウイルスの蔓延が始まり、当初半年で満床の計画でしたが、結局2年程かかりました。新しい施設だったので前年対比での補助金等もなく、運転資金の面においては非常に大変でした。あとは施設内外との外部交流を制限せざるをえなかったのも、利用者さんが家族との面会ができないということは私たちも辛いところですね。最終的には職員の感染リスクなどに頭を悩ませることも多いのでやはり今でも大変な毎日ではあります。

工藤 高齢者がお客様で、資格業務の職員さんが多いので、気苦労も絶えませんね。他にはございますか？

後藤 コロナ以外の問題としては、やはり人手不足でしょうか。働き手が職場を選ぶにあたって、まずは通勤圏内であることが重要だと思いますが、この人口減の時代において近くにどれだけの人が住んでいるか。その中で看護や介護などの国家資格を持っている人を集めるとなると正直大変です。魅力的な職場である必要もあります。まずはDXに取り組むことが先決かと思っています。デジタル化することによって省力化にもつながりますし、何より働く人も安心してケアできます。現在使用しているものの一例としては、ベッドの下に備え付け心拍や呼吸などを測れる機器があります。利用者の方が今寝ているのか起きているかなどは、もはや瞬時に分かりますので、安全で親かな見守りが可能です。

あきたBizフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

利用者のタイミングに合わせて介助することにも可能になります。ただ課題もあります。そもそも今までの介護の在り方が正しいかを見極める目も必要です。意外に凝り固まっているとか思い込んでいる部分もあって、今あるアナログを単にデジタル化するという安易な発想は極めて危険でもあります。

工藤 なるほど。今までやってきたアナログの仕事が、本当に理屈にあっているか？がズレている場合は意外に多いものですね。またサービス業のDXはさらに気持ちに寄り添う部分も必要なので、より丁寧に考える必要がありますよね。

後藤 そうなんです。そもそも！今までの自分たちの仕事を疑う思考も必要になります。介護する側が善意でも、介護を受ける側との気持ちの差が生じてしまうこともあるので、沢山手をかけるということが周りから称賛された時代もありますが、それが本当に利用者の視点に立っているのか？といえは、意外に

介護する側の自己満足になっている場合もあります。このあたりはエビデンスを用いながら今の仕事に変換していくという作業が必要で、まだまだ未開拓と感じています。

工藤 介護される側の自尊心というものはすごく重要ですね。そこを大事にしないと互いに悲しい思いをすることになってしまう気がします。さて最後になりますが、これから秋田にはどんなビジネスチャンスがありそうとお感じですか？

後藤 昔、薬の営業職時代、医師から流動食に和食の味があればいいと言われたことがあるのですが、そのことはずっと頭の中にあります。秋田の介護業界に限って言えば、食文化が豊かな一方で過疎地や一人暮らしも多いので、従来の単なる給食センターではなく、美味しいものを大量に生産し、宅配便なども駆使してもっと大規模に在宅の方、施設、病院へ配達できる流通システムが構築できたらと考えています。食べることは

生きる事です。だからこそ嚥下機能に合わせた美味しい食形態が介護社会には絶対必要だと思っています。特に秋田県は高齢化先進県なので、これをモデル化できれば全国のトップランナーになれると思っています。

人も機械も手をかけてお世話するのが好きみたいです。

後藤理事長の趣味はバイク。CB1100Rという大きいバイクと、お父様の形見のCB450という約60年前の古いバイクを今でも大切に手入れしながら乗られているそうです。古いバイクのため気温や湿度にも影響され、なかなか手がかかるそうですが、手をかけてお世話するのが大好き、手をかける側の独りよがりにならないように気をつけなきゃ！笑。なんだか介護の話みたいですね。とおっしゃっていたのが印象的でした。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J-MOTHER'S 藤田 幸

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)



※撮影のために一時的にマスクを外しています。